図書館通信

最上校図書委員会
№２　４月１８日

４月２３日・子ども読書の日
「読んで！読んで！いっぱい読んで！」

２０２２年４月２３日～５月１２日

第６４回こどもの読書週間
「ひとみキラキラ　本にドキドキ」

広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるために、制定されました。子どもたちにもっと本を、子どもたちにもっと本を読む場所をとの願いから、誕生した取り組みで、子どもに読書を勧めるだけでなく、大人にとっても子どもの読書の大切さを考えましょうという取り組みでもあります。ぜひ、この機会に本を読んでみましょう。

☆学校司書　髙橋からのオススメ！

万城目学著　『ヒトコブラクダ層ぜっと　上・下』

万城目ワールド、ついに海を越えた世界へ！

まじでやってきてしまった、メソポタミア！

貴金属泥棒で大金を手にした三つ子の前に、ライオンを連れた謎の女が現れたとき、彼らの運命は急転する。わけもわからず向かわされた砂漠の地で、三つ子が目撃する驚愕の超展開とは!? 万城目学が挑む、面白さ全部載せの物語。アクションあり神話ありでどのページからも目が離せないジェットコースターエンターテインメント!

読書週間！　オススメの本！！

★読書週間に３年生の図書委員からのオススメの本を紹介します。

☆菅利穂さんからのオススメ！

川口俊和著　『コーヒーが冷めないうちに』
『この嘘がばれないうちに』
『思い出が消えないうちに』
『さよならも言えないうちに』

あの日に戻れたら、あなたは誰に会いに行きますか？

☆中川大夢さんからのオススメ！

今村昌弘著　『屍人荘の殺人』
『魔眼の匣の殺人』
『兇人邸の殺人』

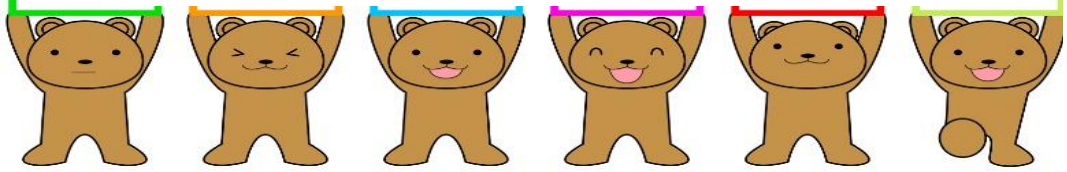
衝撃を陵駕（りょうが）するシリーズ

☆大澤こころさんからのオススメ！

澤村御影著　『准教授、高槻彰良の推察』シリーズ　①俗学かく語りき
② 怪異は隙間に宿る　③ 呪と祝の語りごと　④ そして異界の扉が開く
⑤ 生者は語り死者は踊る　⑥ 鏡がうつす影　⑦ 語りの底に眠るもの

大学で民俗学を受け持ち、怪談や都市伝説の研究をしている変人の准教授・高槻彰良（たかつきあきら）と、人の嘘を聞き分ける力をもつ孤独な大学生・深町尚哉（ふかまちなおや）が出会い、怪異や都市伝説の謎を“解釈”していく民俗学ミステリー作品。本当に面白いんです！！！

読書週間！　オススメの新刊！！



『一ノ瀬ユウナが浮いている』　乙一著

近未来の日本、悪名幼馴染みの一ノ瀬ユウナが、宙に浮いている。十七歳の時、水難事故で死んだはずのユウナは、当時の姿のまま、俺の目の前にいる。不思議なことだが、ユウナのお気に入りの線香花火を灯すと、俺にしか見えない彼女が姿を現すのだ。ユウナに会うため、伝えていない気持ちを抱えながら俺は何度も線香花火に火をつける。しかし、彼女を呼び出すことができる線香花火は、だんだんと減っていく

『　神曲　』　川村元気著

小鳥店を営む檀野家の平穏な日常は、突然終わりを告げた。息子が通り魔事件で刺殺され、犯人は自殺。地獄に突き落とされた父、母、姉の三人が、悲しみと怒りを抱えながらも足掻き、辿り着いた先にあるものとは。次々に明かされる家族の秘密、ラスト 20 ページの戦慄、そして驚嘆の終曲（フィナーレ）。震えるほどの感動が待つ、著者渾身の飛躍作。

『三トンとふびん』　吉本ばなな著

愛は戦いじゃないよ。愛は奪うものでもないよ。そこにあるものだよ。地球の上でめぐりゆく出会いと、ちいさな光に照らされた人生のよろこびにあたたかく包まれる全６編。

『砂嵐に星屑』　一穂ミチ著

日々頑張るあなたが、きっとこの本の中にいます。それぞれの世代に、それぞれの悩みや壁がある。つらかったら頑張らなくてもいい。でも、つらくったって頑張ってみてもいい。続いていく人生は、自分のものなのだから。世代も性別もバラバラな４人を驚愕の解像度で描く、全４編。

『　タラント　』　角田光代著

片足の祖父、不登校に陥る甥、〝正義感〟で過ちを犯したみのり。心に深傷を負い、あきらめた人生に使命―タラント―が宿る。著者五年ぶり、慟哭の長篇小説。

『オオルリ流星群』　伊与原新著

山際彗子が秦野市に帰ってきた。手作りで太陽系の果てを観測する天文台を建てるというのだ。28 年ぶりの再会を果たした高校時代の同級生・種村久志は、かつての仲間たちと共に、彗子の計画に力を貸すことに。行き詰まった人生の中で隠された幸せに気付かせてくれる、静かな感動の物語。

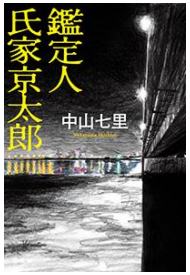
『誰かがこの町で』　佐野広実著

人もうらやむ瀟洒（しょうしゃ）な住宅街。その裏側は、忖度と同調圧力が渦巻いていた。やがて誰も理由を知らない村八分が行われ、誰も指示していない犯罪が起きる。外界から隔絶された町で、19 年前に何が起きたのか。いま日本中のあらゆる町で起きているかもしれない惨劇の根源を追うサスペンス！

『母の待つ里』　浅田次郎著

生まれ育った場所だけが「ふるさと」ですか？　現代人に本当の幸せを問う？上京して四十年、一度も帰ろうとしなかった郷里で私を温かく迎えてくれたのは、名前も知らない〈母〉でした。家庭も故郷も持たない人々の元に舞い込んだ〈理想のふるさと〉への招待。半信半疑で向かった先には奇跡の出会いが待っていた。雪のように降り積もる感動、全く新しい家族小説にして永遠の名作誕生！

『鑑定人　氏家京太郎』　中山七里著



民間の科学捜査鑑定所。所長の氏家は、女子大生３人を惨殺したとされる猟奇殺人犯の弁護士から再鑑定の依頼を受ける。相対する警視庁科捜研との火花が散る中、裁判の行く末は？驚愕の結末が待ち受ける、圧巻の鑑定サスペンス！

『世界が青くなったら』　武田綾乃著

ある朝仲内佳奈が目を覚ますと、彼氏の坂橋亮が世界から消えていた。LINE に履歴はないし、電話帳の中の番号もなくなっている。不安になって亮のマンションに行ってみるが、亮の部屋はずっと空室だという。自分の頭がおかしくなってしまったのか、それとも世界の方が壊れてしまったのか？